

大阪府議会議員 府政短信(31)

ご意見をお聞かせ下さい

井上 あきら



大阪流事業仕分け 改革は大阪の未来のために

橋下知事は就任直後に「収入の範囲で支出を組む」との大号令で、財政再建プログラムを提案し、議会で大激論が行われました。

しかし、昨年からの世界同時不況の深刻な影響で府税収入も十二%以上の減収が予想され、さらに厳しい府政運営

が求められています。そこで、知事は新たなプログラムを立ち上げ、前回の積み残した課題を徹底的に見直すことで府財政の構造的な課題を分析し、変革に取り組みこととなりました。



以上の内容を中心に、三月に分析結果を公表し、七月にPT試算公表、九月に新たな財政再建プログラム(案)の公表が予定されています。私は橋下知事の行政手腕を評価する一人ですが、前回のような荒削りな手法ではなく、知事が考える国と地方、基礎自治体との分権化をすすめるために、事業一つひとつの是非(事業仕分け)を丁寧に見極めることが必要と考えます。

権限移譲

池田市はトップランナー

(刷新会議事業仕分け)

- 刷新会議事業仕分け
 - ① 財政再建プログラムの更なる徹底
 - ② 増加する義務的負担の歳出構造への対応
 - ③ 税・交付税等への対応
- 公務員改革
 - ① 給与制度改革
 - ② 新たな公務員制度の先導
- 府組織の改革
 - ① 独立行政法人・出資法人の独立性の強化
 - ② 試験研究機関の抜本的見直し
 - ③ 本庁と出先、総務系と事業系の関係再構築

橋下知事が進める特例市並みの権限委譲は池田・箕面・豊能・能勢のグループの他は阪南市しか積極的に進めようとしていないのが現状です。新たなインセンティブとして、事務受け入れをすすめる

ために財源保障として今年は四億円、三年で最大三十二億円を措置する予定です。私は、府が自らの業務を基礎自治体に移すことができれば、道州制への移行も見えてくると考えています。

そのために、国と地方の協議機関の大阪版として、政策立案段階で対等の立場で市町村と連携して取り組むことを目的とした協議機関の設置を提案しています。

府無形民族文化財

がんがら火祭り

昨年十一月の文化財指定市議会にて承認され、今月の府教委で了承されることになりました。

現在は能勢浄瑠璃をはじめ六つの文化財・保存会が指定されています。がんがら火祭りが認定されることになれば七番目の指定となります。



新年明けましておめでとうございます。

昨年は皆様から変らぬご支援をいただき、心からお礼申し上げます。

さて、昨年11月の政府行政刷新会議の事業仕分けをご覧いただいたでしょうか。「よくやった」と思うと同時に、一昨年の橋下知事の財政再建プログラムに基づく予算削減提案が脳裏に浮かびました。

私は当時、議員団医療福祉部会長として事業仕分けを行い、議員団独自の改革案を提示しました。

私の行政改革での基本原則は本来の言葉とは逆に、「ビルド・アンド・スクラップ」です。今日まで、地方行政は常に施策の積み上げで進められてきましたが、歳入減少の中で新しい施策をつくる場合は、同種の古い施策を廃止する勇気を首長は持つべきだと思います。

私は橋下知事の先見性と行政刷新会議の凄さに驚きました。

さて、昨年5月に2年任期で関西広域連合調査特別委員会委員長に就任していますが、昨年12月24日に2府7県の特別委員会委員長と意見交換会を府庁で開催しました。その中で、それぞれの議会の立場には差異があることもわかりました。

しかし、私は新しい国のかたちをつくり、地域主権の実現に今年も全力で取り組んでまいります。

一方先日、11月15日の地域医療・在宅医療フォーラムには多くのご参加をいただきありがとうございました。皆様からいただきましたご意見をこれからの府政に生かしてまいります。

併せて、大谷環境政務官・市議との合同報告会も月1回ペースで開催いたします。近くで開催のときは是非、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、まだまだ寒さ厳しいと存じますが、ご健康で過ごされますようお願い申し上げます。

平成22年 新春

府議会議員 井上 章

・大谷政務官・井上章・各市議活動報告会
1月30日 栄本町コミセン、2月27日 鉢塚会館
3月20日 城南会館 いずれも午後2時からです。